

地域課題・目指す将来像

地域
課題

- 運転手不足や働き方改革を背景に路線バスの運行時間短縮や便数削減、タクシーの運行台数縮小など、今までと同様のサービスを維持することが困難な状況で、将来にわたる持続可能な交通サービスの確保が喫緊の課題。
- 年間100万人以上が訪れる交通結節点（JR稚内駅・バスターミナル）からフェリーターミナルへと至る二次交通をシームレスに機能させ、来訪者の移動ストレスを解消する必要がある。

将来像

- 持続可能な生活交通基盤を確立し、市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を提供。人口の定着に繋げる。
- 観光客の期待度や満足度が向上することで、地場産業の収益向上と雇用の安定に寄与し、地域全体に活力が波及。
- 地域の豊富な再生可能エネルギーをバスの動力に活用することで、エネルギーコストの地域外流出を防ぎ、自立的な経済循環を確立。

推進体制

名称：稚内市自動運転社会実装実現会議

地方公共団体	稚内市、北海道、北海道警察
国（★は現地支援責任者）	北海道経済産業局、北海道運輸局、 ★北海道開発局稚内開発建設部
民間事業者	(株)ティアフォー（自動運転運行事業者）、 (一社)IoT・M2Mフォーラム（社会受容性調査） 宗谷バス(株)、稚内日の丸交通(株)、北都ハイヤー(株)、 ハートランドフェリー(株)、 (株)ユーラスエナジーホールディングス、(株)北風と太陽エナジー、 宗谷シーニックバイウェイ、稚内信用金庫、 (一社)稚内観光協会、稚内商工会議所 ※順不同
大学等	育英館大学

課題解決に向けた取組

① 自動運転社会実装推進事業【自動運転】

- ・ 深刻な運転手不足による交通崩壊リスクを「自動運転EVバス」の社会実装によって解消し、市民の生活基盤と観光振興・環境負荷低減を同時に達成する。
- ・ 駅、バスターミナルと直結する交通結節点である施設と、フェリーターミナルを結び、さらに市役所や病院などの市民生活の重要拠点を回るルートで、「自動運転EVバス」を段階的に社会実装する。
- ・ 令和8年度はレンタル車両で技術検証や社会受容性評価を行い、令和9年度は車両を購入し、ルートを固定した実証運行を継続、令和10年度にはレベル4無人自動運行を目指す。

稚内市：次世代の移動を支える「自動運転EVバス」運行ルート案



自動運転EVバスの運行ルート案